
星空の恋

宝玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星空の恋

【著者】

Z4336F

【作者名】

宝玉

【あらすじ】

校内宿泊体験のとき、すっごい喜びキドキしていたのを覚えていました！その気持ちを書きつづってみました。恋していると、毎日が楽しくなつてきました！

空に輝く1番星、君と見た

初めて、学校に泊まつたね。

お前と一緒に見た星は、何よりも輝いていたよ。

「綺麗だね」

隣にいる君に、そつと話し掛けた。

わずかな時間だけど、お前とふざけあえて嬉しかった。

殴り合いをして

あなたと

触れ合えた。

それが、嬉しくて嬉しくて。
夜、顔が真っ赤になつてた。

食事のとき

私が野菜を切るうとしたら

「俺がやるよ」

つて

私の手から野菜と包丁を奪い取つた。

優しいね

そんなどこ大好きだよ。

夜はカレーだった

あいつが笑つてた

私はほんやり、星空を眺めてた
空には無数の星が輝いていて、綺麗だった

あいつは、いつもあいつに戻つたみたいだね

あの1番星、いちばん綺麗だよ

ほら、みえる？

お前に、似てるよ。

もつ一度外に行つて、星を見よつ

それは、お前以外の他の誰にもたとえることが出来ない

それくらい、綺麗だった。

あの輝き、やっぱりお前に似てる。

だから私も、それにばっかり目が行つてしまつんだ

ただ、いつしょに生活して

いつしょに笑つて

いつしょにふざけあつて

一緒に同じ星を見ていたかつた

このまま時が止まればいい、なんて
甘いことを考えていたね

私は知ってる　お前はあの子が好きってこと

私と同じぐらいにじやれあつてて

まるで、私に見せ付けてるみたいじやない……

私、今日が幸せだよ
一番あなたに近づけたから
まだ、思つていたい

「大好きだよ」つていえる日、ちゃんと来るから
まっすぐに見つめて、目線を合わせていて

この気持ちに、変わりなんて無いから
絶対、あなたのことを忘れない
中学、高校、大学……社会人になつても。

次に会えたときは、星みたいに何にも変わらないで
私だけを見て笑つていて欲しい

ほらー　あの星も、笑つてるよ？

(後書き)

わ～、最近詩ばっかり！！

連載放りっぱなしですみません。

短編小説かいて、満足したら連載のまつを書くと思ってますーそのときは、よろしくおねがいします。

では、宝玉（作者）でした～

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4336f/>

星空の恋

2010年12月25日14時31分発行